

「血液検査、  
良い結果? 悪い結果?」 臨床検査室 にしざわ まな  
西澤 真菜



検査結果を見た時「H」や「L」などの記号が書かれていると気になりますね。これは、「検査をした施設で定めた基準範囲」から外れていることを表しています。

しかし、外れているからすぐに「病気」という訳ではありません。実は、この判断は難しく食事や運動でも変動したり、男女差のある検査項目もあります。そのため、健康診断な

ど定期的に検査をして値の変化を確認することも大事なことです。検査を担当している私達も、どのくらいの値が、どれくらいの間隔にしているか総合的に判断して報告しています。

他人にとって良い結果が自分にとって良いとも限りませんので、ご自身で判断せず担当の先生に相談ください。

検査項目	結果	基準値
.....	L	.....
.....	L	.....
.....	H	.....
.....	.....	.....



**Hospital News**

● **新MRI稼働**



SIGNA Voyager  
1.5 T (GE社製)

特徴1

3つのワイド(ワイドボア・ワイドテーブル・ワイドカバレッジ)で、他の装置より検査空間が広い設計になっており「狭い」を感じさせません。

特徴2

音を最小限に抑えたMRI検査を提供する「SILENT Scan」を搭載しており「うるさい」を感じさせません。 ※使用できない場合もございます。

特徴3

検査中に音楽を聴きながら、または映像をご覧になりながら検査が可能です。もう「怖い」は感じさせません。

当院では、3台のMRI装置を駆使することで患者さんのご要望に合った予約検査、また十分お応えできるような画像提供を図ってまいります。

加古川中央市民病院では  
**3台目のMRI装置が稼働します** (2017年5月15日予定)

MRI検査で多くの患者さんが感じる「狭い」「うるさい」「怖い」の苦痛を和らげ、より快適性の高い環境において検査を受けていただくことが可能です。

● **健康教室**

2カ月に1回、当院の医師・看護師をはじめ医療職による健康教室を開催いたします。

皆さまの日々の健康管理や様々な疾患について解説いたします。ぜひお気軽にご参加ください。



【5月開催案内】  
5/20(土) 14:00~ 「熱中症を知る～予防と救急処置～」  
主講演者: 救急科 主任科部長 切田 学

● **ボランティアを募集しています**

現在、23名の多彩な顔ぶれで、活動内容は車椅子介助、受付手続きの支援、院内の案内、季節を感じていただく飾り物の展示、クリスマスフェスタの飾り付け等々です。

ボランティアの方は「患者さんのもつ力をお役に立てることを大切に、必要な時に手をさしのべること」をモットーに活躍されています。

ご興味を持たれた方は下記の代表電話までお問い合わせください。



● **災害対応病院の指定を受けました**

本年4月1日、当院は加古川市から災害対応病院の指定を受けました。大規模な自然災害が発生した際に負傷者の受け入れや医薬品等の支援活動が円滑に行われるよう、平常時から防災意識の高揚を図り、災害医療チームの訓練や医薬品等の備蓄確保に努め、市と連携しながら地域防災活動の推進に取り組んでまいります。



● **シャトルバス**

山陽電車「尾上の松」駅と当院を結ぶ直通のシャトルバス(無料)の試験運行を9月末まで延期しましたので、引き続きご利用ください。(10月以降の運行につきましては、乗車状況等より検討してまいります。)



受付時間  
診療受付時間…(月～金)  
8:00～11:00  
診療時間…(月～金)  
8:45～17:00  
休診日…土曜日・日曜日・祝祭日  
年末年始12月29日～1月3日

地方独立行政法人 加古川市民病院機構  
**加古川中央市民病院**

〒675-8611 兵庫県加古川市加古川町本町439番地  
TEL: 079-451-5500(代表)  
http://www.kakohp.jp/



巻頭言 「新年度のご挨拶」

加古川市民病院機構 理事長 おにし よしお  
加古川中央市民病院 院長 **大西 祥男**



平成28年7月1日に加古川中央市民病院が開院し9カ月が経過いたしました。開院当初は来院者の集中などによる混乱もありご不便をおかけしましたが、地域の皆様には、地域医療の充実に対してご理解とご協力いただき改めて深く感謝申し上げます。

加古川中央市民病院は、600床、30診療科を有する急性期総合病院です。消化器センター、心臓血管センター、こどもセンター、周産母子センター、がん集学的治療センターの5大センターを中心に多くの診療科の総合力で救急医療に取り組んでいます。新規導入した内視鏡下手術支援ロボット(ダ・ヴィンチ)、最新の不整脈治療機器マグネティック・ナビゲーションシステム(Niobe ES)、ハイブリッド手術室での手術症例も多く、ヘリコプター搬送受け入れやドクターカーの運用も順調に稼働しています。新しく開設した腎臓内科、神経内科、総合内科へも近隣医療機関から多くのご紹介を戴き、呼吸器外科の手術症例も増加しています。兵庫県内には少ない小児循環器科、小児心臓血管外科の診療も軌道に乗り、本年1月からは乳がんに対する診療体制を整備したところです。

一方、病院をご利用いただく皆様へのサービス向上に向けて、サービス改善委員会を中心に様々なご意見に対しての改善策を検討し、職員駐車場の解放(第4駐車場)、駐車料金の改定と精算機の増設、院内表示の改善など出来ることからスピード感をもって対応してまいりました。JR「加古川」駅からのシャトルバスに加えて、山陽電鉄「尾上の松」駅からのシャトルバスの運行を開始し好評を得ています。また、ボランティアの皆様には患者さんの対応や補助業務、院内飾りつけ、癒しの作品づくりなどを通して病院運営を助けていただいております。大変感謝しています。

地域住民の皆様を支えていただきながら、地域の病院、診療所や介護施設との連携を強化し「加古川中央市民病院があるから安心して暮らせる」と言っていただける様、より一層努力して参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

特集

「呼吸器疾患」の最新治療に迫る



# 「呼吸器疾患」の最新治療に迫る

## 呼吸器疾患について

「呼吸器」の病気といえば、肺炎や喘息・COPD(慢性閉塞性肺疾患)などの良性疾患から、肺がんや中皮腫などの悪性疾患まで様々です。高齢化や喫煙習慣により患者数が増えている一方で、新しい診断や治療の方法が次々と開発されています。当院もできるだけ最新の治療を取り入れてぜひお役に立ちたいと考えています。

本号で紹介するのは、肺がんの治療における最新のトピックスです。この領域の進歩は著しく、特に化学療法においては新薬が毎年のようにできています。

あと最後に、当院に導入された呼吸機能の検査機器についても案内します。



にしうま てるあき  
呼吸器内科 主任科部長 **西馬 照明**

呼吸器外科開設から1年経過しました。おかげさまで手術を中心とした呼吸器外科診療を順調にさせて頂いております。呼吸器疾患の患者さんについては内科外科の垣根を越えて対応させていただきます。毎週の呼吸器カンファレンスや毎月の肺がんについてのカンファレンス(カンサーボード)も行っており、手術が必要な患者さんには迅速な対応ができます。

疾患の性質上ご紹介いただく際には呼吸器内科初診が多いと思いますが、よろしくお願ひ致します。

いわた こういちろう  
呼吸器外科 主任科部長 **岩永 幸一郎**



## 「肺がん」の治療(ステージ)

がん看護専門看護師 **和田 尚子**

肺がん治療は、がん細胞のタイプ(組織型)や、広がり(ステージ)によって決まります。ステージは、がんの大きさ、リンパ節転移、他臓器転移の有無によりⅠ～Ⅳ期の進行度に分かれ、下図のような治療になり、時には複数の治療を組み合わせで行います。いずれの治療も、患者さんの年齢や体力、持病の有無、価値観を考えながら、ベストな治療と一緒に考えます。また緩和ケアは、どのステージにおいても治療と並行して行っています。

	Ⅰ		Ⅱ		Ⅲ		Ⅳ
	A	B	A	B	A	B	
手術療法					→	→	
放射線療法					→	→	
化学療法							→
緩和ケア							→



## 外科療法

呼吸器外科 主任科部長 **岩永 幸一郎**

呼吸器外科の手術で多いのは原発性肺がんや転移性肺腫瘍などの悪性疾患、気胸や膿胸などの疾患です。いずれも積極的に治療しております。原疾患の治療もしっかりとした上で、低侵襲で術後合併症のリスクを減らせるように胸腔鏡手術も積極的に導入しています。

2016年は54件の全身麻酔手術を行いました。全例に胸腔鏡を使用しており、胸腔鏡の視野でほぼすべての手術を行っています。胸腔鏡の視野のみで手術を行う一番のメリットは胸の傷が小さくなり、術後の呼吸機能の損失や疼痛が最小限で済むことです。それによって術後回復期に起こる合併症(特に肺炎)を回避でき早期退院につながります。疾患によっては大きな開胸と直接見る視野が必要な手術もあります。患者さんの治療方針については呼吸器グループで速やかに検討しておりますのでよろしくお願い致します。

## 放射線療法

放射線室 副技師長 **村上 直基**

新規導入された放射線治療装置(True Beam)は、次世代の放射線治療に対応すべく開発された最新の医療用直線加速器です。様々な症例に対して短時間に、かつ高精度に治療を行うことが可能になりました。放射線治療スタッフは、精度管理と安全管理を行い、安心・安全な放射線治療を提供できるよう努めています。

### SyncTrax FX4version

当院では、国内2台目となる高精度放射線治療を支援する動体追跡システム(SyncTrax)を導入しています。呼吸によって動く腫瘍(肺・肝臓など)の近くに埋め込まれた極小マーカーを追跡し、動きに合わせてピンポイント照射を行います。これにより、安全で効果的な治療を可能にしています。



## 薬物療法

がん化学療法看護認定看護師 **出口 直子**



薬物療法とは、薬を使う治療のことです。肺がんの場合は、主に抗がん剤、分子標的薬を使います。近年では、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬が注目されており、症状や全身状態を考慮し最善の治療を選択します。

### 分子標的薬

正常細胞とがん細胞を区別せず作用する今までの抗がん剤と異なり、分子標的薬はがん細胞の増殖に関連する分子(遺伝子やタンパク)に狙いを定めて作用し、がんを縮小させます。分子標的薬の使用には投与前の遺伝子検査が必要です。副作用は今までの抗がん剤に比べ正常細胞への影響は少ないのですが、特徴的な症状があります。



### 免疫チェックポイント阻害薬

私たちの「免疫」は常に体の中を監視して侵入してきた病原体やがん細胞など異物を見つけると攻撃して体から取り除きます。ところが、がん細胞はこの免疫の攻撃にブレーキをかける力を獲得し増殖し続けるようになります。免疫チェックポイント阻害薬は、このブレーキを解除し免疫の力を活性化させる治療です。副作用は今までの抗がん剤と異なり、免疫が働きすぎることによって起こる特徴的な症状があります。副作用ととらえにくい症状もあるので十分な確認が必要です。



## 呼吸器疾患の検査機器について

臨床検査室 **井上 香瑞江**

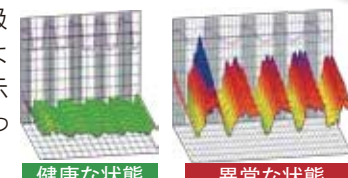
レントゲンでわからない呼吸器症状(咳や息苦しきなど)を調べるのが呼吸機能検査です。肺活量などを調べる従来の機器に加えて、当院では「呼気NO検査」と「モストグラフ」を導入し、慢性の咳や喘息・COPDの診断に役立てています。

### 呼気NO検査

吐く息の中のNO(一酸化窒素)の量を測ることで、気道の炎症の程度が従来法より簡単にわかります。主に気管支喘息の有無や程度、治療の効果判定に有用です。結果方法は、息を10秒間「フー」と吐くだけ。幼児～高齢の方まで沢山の患者さんの診療に役立っています。



気管支や肺全体の抵抗を測定することで換気のしにくさが推測でき、気管支喘息やCOPDの診断などに有用な検査です。検査方法はマウスピースをくわえて10秒程度安静呼吸をするだけです。右図のようにカラーで結果が表示されイメージしやすくなっています。



### モストグラフ 02

## かかりつけのお医者さんにご相談を

体調に不安があり、治療についてもっと詳しく相談したいなどの場合は、まずはかかりつけの先生にご相談ください。当院では、かかりつけの先生としっかり医療連携を行い皆さんの健康を支えます。



かかりつけ医

強い医療連携

加古川中央市民病院